

## 公的資金補償金免除繰上償還に係る公営企業経営健全化計画

### I 基本的事項

#### 1 事業の概要

特別会計名：葛城市水道事業

事業名	末端給水事業（上水道事業）		
事業開始年月日	S33.1.1	地方公営企業法の適用・非適用	■適用 □非適用
団体名	葛城市	職員数（H22. 4. 1現在）	16
構成団体名			
健全化判断比率の状況	<input type="checkbox"/> 財政再生基準以上 <input type="checkbox"/> 早期健全化基準以上 <input type="checkbox"/> 経営健全化基準以上 計画期間：		

注1 「特別会計名」欄には、「実施要綱」の2において、補償金免除繰上償還の対象とされた公営企業債のうち、繰上償還を希望する公営企業債に係る事業の属する特別会計の名称を記入すること。

2 「事業開始年月日」欄は、「地方公営企業決算状況調査」における「施設及び業務概況に関する調」中の「事業開始年月日」又は「供用開始年月日」（工業用水道事業にあつては「供給開始（予定）年月日」）を記入すること。なお、一の特別会計において複数の事業を行っている場合には、当該年月日が最も早い（古い）ものに係る年月日を記入すること。

3 事業を実施する団体が一部事務組合等（一部事務組合、広域連合及び企業団をいう。以下同じ。）の場合は、「団体名」欄に一部事務組合等の名称を記入し、「構成団体名」欄にその構成団体名を列記すること。

4 「職員数」欄には、平成22年4月1日における常時雇用職員数について記入すること。なお、当該職員数については、「地方公営企業決算状況調査」における「施設及び業務概況に関する調」中の「職員数」の範囲と同一（ただし、集計時点・集計単位は異なる。）のものであること。また、複数事業にまたがって勤務している職員がいる場合は、当該職員の所掌事務、給与の負担状況等により区分して記入すること。

5 「健全化判断比率の状況」欄については、繰上償還を実施しようとする年度において当該団体の健全化判断比率又は当該公営企業の資金不足比率が財政再生基準、早期健全化基準又は経営健全化基準以上である場合、該当するものをチェックすること。その場合には、財政再生計画、財政健全化計画又は経営健全化計画の計画期間を併せて記入すること（複数の項目に該当する場合は、該当する項目全てをチェックし、策定している全ての計画の計画期間を記入すること。）。

#### 2 財政指標等

資本費	67円/t（H21年度）	財政力指数	0.662（H21年度）
資金不足比率（健全化法）（%）	0.0（H21年度）	財政力指数（臨財債振替前）	
経常収支比率（%）	87.3（H21年度）	実質公債費比率（%）	12.9（H22年度）
		将来負担比率（%）	94.2（H21年度）

注1 資本費については、平成20年度又は平成21年度の数値を記入することとし、財政力指数、実質公債費比率、経常収支比率及び将来負担比率については、当該事業の経営主体である地方公共団体の数値を記入すること。

この場合、財政力指数及び実質公債費比率については、平成21年度又は平成22年度の数値を、経常収支比率及び将来負担比率については、平成20年度又は平成21年度の数値をそれぞれ記入することとし、これら以外の数値については、直近の地方財政状況調査及び公営企業決算状況調査の報告（又は報告を予定している）数値を記入すること。

なお、当該事業が一部事務組合等により経営されている場合は、財政力指数、実質公債費比率、経常収支比率及び将来負担比率については、その構成団体の各数値を加重平均したものを記入すること（ただし、一部事務組合等の構成団体に財政力指数1.0以上の団体がある場合には、構成団体の中で最も低い財政力指数の団体の数値を記入すること。）。

また、一部事務組合等に係る将来負担比率については、各構成団体の将来負担比率を各構成団体の団体区分ごとに別表1の基準1で除し、それにより得た数値を将来負担比率算出における分母の額に応じて加重平均したものを記入すること。

2 財政指標については、条件該当年度を（ ）内に記入すること。また、財政力指数以外の財政指標については、数値相互間で年度（地方財政状況調査等における年度）を混在して使用することがないよう留意すること。

3 財政力指数（臨財債振替前）については、財政力指数が1.0以上の団体で、臨時財政対策債振替前の基準財政需要額を用いて算出した場合の財政力指数が1.0を下回る場合についてのみ記入すること。この場合には、補足様式1を作成し添付すること。なお、一部事務組合等については本欄の記入は不要であること。

4 「資金不足比率（健全化法）」欄には、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条の規定に基づいて算出した率が経営健全化基準以上である場合に、当該率を記入すること。

5 注1に関連して、一部事務組合等については、補足様式2を作成し添付すること。

#### 3 合併市町村等における公営企業の統合等の内容

<input type="checkbox"/> 新法による合併市町村、合併予定市町村における公営企業の統合等の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 旧法による合併市町村における公営企業の統合等の内容 <input type="checkbox"/> 該当なし
〔合併期日：平成16年10月1日 合併前市町村：新庄町・當麻町〕 公営企業会計の統合、組織の統合

注1 「新法による合併市町村、合併予定市町村」とは、市町村の合併の特例に関する法律（平成16年法律第59号）第2条第2項に規定する合併市町村及び同条第1項に規定する市町村の合併をしようとする市町村で地方自治法（昭和22年法律第67号）第7条第7項の規定による告示のあったものをいう。

2 「旧法による合併市町村」とは、旧市町村の合併の特例に関する法律（昭和40年法律第6号）第2条第2項に規定する合併市町村（平成7年4月1日以後に同条第1項に規定する市町村の合併により設置されたものに限る。）をいう。

3 □にしを付けた上で、市町村合併に伴い実施（予定）の公営企業会計の統合、組織の統合その他公営企業の経営の合理化施策の内容を記入すること。

#### 4 公営企業経営健全化計画の基本方針等

区分	内容
計画名	葛城市水道事業経営健全化計画
計画期間	平成22年度～平成26年度
計画策定責任者	葛城市水道事業管理者 葛城市長 山下 和弥
既存計画との関係	葛城市水道事業経営健全化計画（平成19年度～平成22年度）の延長
公表の方法等	葛城市ホームページ・議会へ報告
基本方針	地方公営企業の目的は、安い負担で、安定して、継続的に供給し続けることであり、「経営」という観点から経済性、効率性、有効性を高め、目標達成に努める。

I 基本的事項（つづき）

5 繰上償還希望額等

(単位：千円)

区 分		旧運用部：年利5%以上 6%未満	旧運用部：年利6%以上 6.3%未満	旧運用部：年利6.3%以上 6.5%未満	合 計
		旧簡保：年利5%以上 6%未満	旧簡保：年利6%以上 6.5%未満	旧簡保：年利6.5%以上 6%未満	
		旧公庫：年利5%以上 5.5%未満	旧公庫：年利5.5%以上 6%未満	旧公庫：年利6%以上	
				うち年利7%以上	
旧資金運用部資金	繰上償還希望額	73,303.0			73,303.0
	補償金免除額	15,926.3			15,926.3
旧簡易生命保険資金	繰上償還希望額				
旧公営企業金融公庫資金	繰上償還希望額		10,444.4		10,444.4

- 注1 「旧資金運用部資金」の「補償金免除額」欄は、各地方公共団体の「繰上償還希望額」欄の額に対応する額として、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額であり、各地方公共団体の所在地を管轄とする財務省財務局・財務事務所にて予め相談・調整の上、確認した補償金免除(見込)額を記入すること。
- 2 各欄の数値は小数点第2位を切り上げて、小数点第1位まで記入すること。従って各欄の単純合計と「合計」欄の数値は一致しない場合があること(なお、小数点第2位が0であるが、小数点第3位に数値がある場合は同様に切り上げること。)

6 平成22年度以降における年利5%以上の地方債現在高の状況

【旧資金運用部資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成24年度末残高)	年利6%以上6.3%未満 (平成23年度末残高)	年利6.3%以上 (平成22年度末残高)	合 計
		うち年利7%以上			
公 営 企 業 債	上水道事業	73,303.0			73,303.0
合 計 (A)		73,303.0			73,303.0
※上記のうち (再掲) 一般会計負担分					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)		73,303.0			73,303.0

【旧簡易生命保険資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成24年度末残高)	年利6%以上6.5%未満 (平成23年度末残高)	年利6.5%以上 (平成22年度末残高)	合 計
		うち年利7%以上			
公 営 企 業 債					
合 計 (A)					
※上記のうち (再掲) 一般会計負担分					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)					

【旧公営企業金融公庫資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上5.5%未満 (平成24年度9月期残高)	年利5.5%以上6%未満 (平成23年度9月期残高)	年利6%以上 (平成22年度末残高)	合 計
		うち年利7%以上			
公 営 企 業 債	上水道事業		10,444.4		10,444.4
合 計 (A)			10,444.4		10,444.4
※上記のうち (再掲) 一般会計負担分					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)			10,444.4		10,444.4

- 注1 地方公共団体が経営する当該事業に要する経費の財源として起債した公営企業債の平成22年度末以降における年利5%以上の地方債現在高について、旧資金運用部、旧簡易生命保険資金、旧公営企業金融公庫資金の別、年利別に記入すること。
- 2 地方債計画の区分ごとに記入し、必要に応じて行を追加すること。
- 3 本表に記入する公営企業債には、当該地方公共団体の一般会計が管理するもの(一般会計出資債、補助金債のほか、一般行政病院等に係る病院事業債、過疎代行事業による下水道事業債で事業経営の実態がなく一般会計が残債を管理しているもの、起債時には事業が存在していたが、その後の事業廃止等により現在は一般会計が残債を管理しているもの等)も含むが、その場合には、「※上記のうち一般会計負担分」に再掲すること。
- 4 「※上記のうち一般会計負担分」には、上記注3のとおり、公営企業債のうち一般会計において残債の管理をしているものについて再掲するものであり、公営企業会計が管理する残債に係る元利償還に対する一般会計繰出金を記入するものではない。

## II 財務状況の分析

区 分	内 容
財務上の特徴	<p>本市の水道事業は、平成16年10月1日の新庄町と當麻町による合併に伴い水道事業が統合され、「サービスは高く、負担は低く」との合併時のキャッチコピーに基づき水道料金が設定されたため、県下では安価な料金水準であるといえる。しかしながら、大口使用者の存在や人件費をはじめとした経費の徹底的な削減により、平成21年度決算では、経常収支比率118.6%、自己資本構成比率85.5%、流動比率3,197.1%と、概ね良好な経営状況であると考えられる。</p>
経営課題	<p>課題 ① 中・長期的な経営ビジョンの策定 中・長期的な視点から事業の計画や目的・戦略等を明確にし、継続的に安定した経営を行うため、水道ビジョンを策定する必要がある。</p> <p>課題 ② 事務事業評価の活用 事務事業評価を活用して効率性、有効性、妥当性の観点から自己分析を行い、PDCAのマネジメントサイクルを確立させて回転させ続けることにより、業務の改善を重ねていく必要がある。</p> <p>課題 ③ 震災等の災害への対策 平成21年度の配水管等の更新率は、0.86%であり老朽化が課題であることから、耐震性の高い耐震管への更新も含め、早急かつ、計画的な更新を図る必要がある。</p> <p>課題 ④ 収納対策の強化 経費の軽減と不平等の是正を解消するため、口座振替の利用を推進するとともに、滞納者への個別訪問、給水停止等の収納対策を強化する必要がある。</p> <p>課題 ⑤ 内部統制の構築と強化 内部統制を機能させることにより、事務処理におけるミスや不正が発生するリスクを軽減させ、業務の有効性と効率性、財務報告の信頼性を高め、法令等の遵守、資産の保全等を図る必要がある。</p>
留意事項	

注1 「財務上の特徴」欄は、事業環境や地域特性等を踏まえて記入すること。また、経営指標等について経年推移や類似団体との水準比較などを行い、各自工夫の上説明すること。

2 「経営課題」欄は、料金水準の適正化、資産の有効活用、給与水準・定員管理の適正合理化、維持管理費等サービス供給コストの節減合理化、資本投下の抑制、民間的経営手法等の導入等、団体が認識する経営上の課題について、優先度の高いものから順に記入する。また、経営課題と認識する理由を類似団体等との比較を交えながら具体的に説明すること。

3 「留意事項」欄は、「経営課題」で取り上げた項目の他に、経営に当たって補足すべき事項を記入すること。

4 必要に応じて行を追加して記入すること。



(単位:百万円, %)

年 度		平成17年度 (計画前5年度) ( 決 算 )	平成18年度 (計画前4年度) ( 決 算 )	平成19年度 (計画前3年度) ( 決 算 )	平成20年度 (計画前々年度) ( 決 算 )	平成21年度 (計画前年度) ( 決 算 )	平成22年度 (計画初年度)	平成23年度 (計画第2年度)	平成24年度 (計画第3年度)	平成25年度 (計画第4年度)	平成26年度 (計画第5年度)
区 分	1. 企 業 債	2									
	資本費平準化債										
	2. 他 会 計 出 資 金										
	3. 他 会 計 補 助 金										
	4. 他 会 計 負 担 金										
	5. 他 会 計 借 入 金										
	6. 国 ( 都 道 府 県 ) 補 助 金				11						
	7. 固 定 資 産 売 却 代 金										
	8. 工 事 負 担 金	155	170	195	137	54	105	105	50	50	50
	9. そ の 他										
	計 (A)	157	170	195	148	54	105	105	50	50	50
	(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)										
	純 計 (A)-(B) (C)	157	170	195	148	54	105	105	50	50	50
	1. 建 設 改 良 費	138	140	162	188	151	155	156	156	156	156
	うち職員給与費										
	2. 企 業 債 償 還 金	92	90	126	186	72	74	88	153	75	70
	3. 他 会 計 長 期 借 入 返 還 金										
	4. 他 会 計 へ の 支 出 金										
	5. そ の 他										
	計 (D)	230	230	288	374	223	229	244	309	231	226
資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(C) (E)	73	60	93	226	169	124	139	259	181	176	
補 て ん 財 源	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金	73	60	93	224	164	122	137	256	178	173
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額										
	3. 繰 越 工 事 資 金										
	4. そ の 他				2	5	2	2	3	3	3
計 (F)	73	60	93	226	169	124	139	259	181	176	
補 て ん 財 源 不 足 額 (E)-(F)											
他 会 計 借 入 金 現 在 高 (G)											
企 業 債 現 在 高 (H)	1562	1472	1346	1160	1088	1014	927	774	699	629	

## (2) 他会計繰入金

(単位:百万円)

年 度		平成17年度 (計画前5年度) ( 決 算 )	平成18年度 (計画前4年度) ( 決 算 )	平成19年度 (計画前3年度) ( 決 算 )	平成20年度 (計画前々年度) ( 決 算 )	平成21年度 (計画前年度) ( 決 算 見 込 )	平成22年度 (計画初年度)	平成23年度 (計画第2年度)	平成24年度 (計画第3年度)	平成25年度 (計画第4年度)	平成26年度 (計画第5年度)
区 分	収 益 的 収 支 分	3	3	2	3	2	5	5	3	3	3
	うち基準内繰入金	3	3	2	3	2	5	5	3	3	3
	うち基準外繰入金										
資 本 的 収 支 分	収 益 的 収 支 分										
	うち基準内繰入金										
	うち基準外繰入金										
合 計		3	3	2	3	2	5	5	3	3	3

## (3) 経営指標等

(単位:%)

	平成17年度 (計画前5年度) (決算)	平成18年度 (計画前4年度) (決算)	平成19年度 (計画前3年度) (決算)	平成20年度 (計画前々年度) (決算)	平成21年度 (計画前年度) (決算)	平成22年度 (計画初年度)	平成23年度 (計画第2年度)	平成24年度 (計画第3年度)	平成25年度 (計画第4年度)	平成26年度 (計画第5年度)
地方財政法による資金不足の比率 (%) (再掲)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
料金回収率 <sup>※</sup> (%)	109.3	113.5	109.3	112.0	117.6	103.8	102.9	113.0	109.1	105.3
資本費 (円又は%)	74	72	71	69	67	68	68	65	64	64
総収支比率(法適用) (%)	109.2	113.7	110.6	113.5	118.3	104.9	104.0	114.5	111.4	107.6
経常収支比率(法適用) (%)	109.4	114.0	110.9	113.7	118.6	105.1	104.2	114.7	111.6	107.8
営業収支比率(法適用) (%)	123.2	128.0	122.2	124.6	127.3	112.2	110.7	120.0	115.0	111.0
累積欠損金比率(法適用) (%) (再掲)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
収益的収支比率(法非適用) (%) (再掲)										
繰入金比率	収益的収入分 (%)	0.4	0.4	0.3	0.4	0.2	0.7	0.7	0.4	0.4
	うち基準内繰入金 (%)	0.4	0.4	0.3	0.4	0.2	0.7	0.7	0.4	0.4
	うち基準外繰入金 (%)									
	資本的収入分 (%)									
	うち基準内繰入金 (%)									
	うち基準外繰入金 (%)									

注1 上記の各指標の算出方法については、次のとおりであること。

- (1) 地方財政法による資金不足の比率 (%)
    - ア 地方公営企業法適用企業の場合＝地方財政法施行令第19条第1項により算定した資金の不足額／(営業収益－受託工事収益)×100
    - イ 地方公営企業法非適用企業の場合＝地方財政法施行令第20条第1項により算定した資金の不足額／(営業収益－受託工事収益)×100
  - (2) 総収支比率 (%)＝総収益／総費用×100
  - (3) 経常収支比率 (%)＝経常収益／経常費用×100
  - (4) 営業収支比率 (%)＝(営業収益－受託工事収益)／(営業費用－受託工事費用)×100 (病院事業にあつては「営業収支比率」を「医業収支比率」と読み替えること。)
  - (5) 累積欠損金比率 (%)＝累積欠損金／(営業収益－受託工事収益)×100
  - (6) 収益的収支比率 (%)＝総収益／(総費用＋地方債償還金)×100
  - (7) 繰入金比率 (%)＝収益的収入に属する他会計繰入金 (又は資本的収入に属する他会計繰入金)／収益的収入 (又は資本的収入)×100
- 2 上記指標のうち「料金回収率」は、水道事業(簡易水道事業を含む)、工業用水道事業及び下水道事業(下水道事業にあつては使用料回収率)について記入すること。
- (1) 水道事業、工業用水道事業に係る料金回収率の算出方法
    - ・料金回収率 (%)＝供給単価<sup>※1</sup>／給水原価<sup>※2</sup>×100
    - ※1 供給単価 (円/㎡)＝給水収益／年間総有収水量(工業用水道事業にあつては料金算定に係るもの)
    - ※2 給水原価 (円/㎡)＝(経常費用－(受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費＋基準内繰入金(水道事業のみ)))／年間総有収水量(工業用水道事業にあつては料金算定に係るもの)
    - 但し、簡易水道事業については下記によるものとする。
      - ア 地方公営企業法適用企業の場合＝(経常費用－(受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費＋基準内繰入金＋減価償却費)＋企業債償還金)／年間総有収水量
      - イ 地方公営企業法非適用企業の場合＝(総費用－(受託工事費＋基準内繰入金)＋地方債償還金)／年間総有収水量
  - (2) 下水道事業に係る使用料回収率の算出方法
    - ・使用料回収率 (%)＝使用料収入<sup>※</sup>／汚水処理費<sup>※</sup>×100
    - ※ 各年度の「使用料収入」及び「汚水処理費」については、「地方公営企業決算状況調査」で報告された(又は報告すべき)数値により算出した、特別会計単位の率を記入すること。当該率は「V 繰上償還に伴う経営改革促進効果」の「2 年度別目標等」の「(4) 下水道事業」に記入される「使用料回収率」と一致するものであるため、留意すること。
- 3 上記指標のうち「資本費」は、要綱別表2に基づいて算出すること。
- 4 上記指標のうち(再掲)と記してあるものは、「(1) 収益的収支、資本的収支」において記入したものの再掲の意であり、当該表中から各年度に係る数値を転記すること。

(4) 収支見通し策定の前提条件

条件項目	収支見通し策定に当たっての考え方（前提条件）
1 料金設定の考え方、料金収入の見込み	奈良県下で下から2番目の低料金水準を維持し、計画期間中の料金改正は行わないものとし、給水人口は現状維持であるものの、節水器具等の普及により、有収水量及び料金収入が減少すると予想。なお、総料金収入の約3分の1、総使用水量の約4分の1を占める大口使用者については現状維持であると仮定。
2 他会計繰入金の見込み	収益的収入において基準内繰入（消火栓経費）のみ見込む。
3 大規模投資の有無、資産売却等による収入の見込み	25年度までに中央監視盤の設置(300,000千円)を、一部国庫補助金、それ以外は自己財源により行う。
4 その他収支見通し策定に当たって前提としたもの	県営水道からの受水量及び単価は現状維持であると仮定。

注1 収支見通しを策定するに当たって、前提として用いた各種仮定（前提条件）について、各区分に従い、それぞれその具体的な考え方を記入すること。

- ① 料金設定の考え方、料金収入の見込み  
現在の料金設定の考え方（設定方法等）や、料金水準に対する考え方（類似団体等との比較）、今後の料金収入の見込みとその根拠（有収水量や利用者数の推移等）等について記入すること。
  - ② 他会計繰入金の見込み  
他会計からの負担金、補助金、出資等の対象、規模、推移等について、どのように条件設定したのか分かるよう記入すること。
  - ③ 大規模投資の有無、資産売却等による収入の見込み  
大規模な建設改良事業の実施予定の有無、事業費規模や実施時期及びその際の財源等、また、資産の売却時期や額等について、内容がわかるように記入すること。
  - ④ その他収支見通し策定に当たって前提としたもの  
収支見通し策定に当たって設定した料金設定、他会計繰入金、大規模投資・資産売却以外の前提条件を設定している場合には、その内容を具体的に記入すること。
- 2 病院事業にあつては、「料金設定の考え方」については記入不要であること（「料金収入の見込み」については要記入のこと）。
  - 3 必要に応じて行を追加して記入すること。

#### IV 経営健全化に関する施策

項 目	IIの課題番号	具 体 的 内 容
1 経常経費の見直し		
○ 定員管理	①、②	平成15年度末では22人であった人員は、市町村合併や、その後の事務効率化の推進による人員削減により、平成21年度末時点では16人の人員となった。さらに、平成22年度4月には機構改革により組織のスリム化を行い、上下水道部長の人員費を下水道課にも負担させることにより、人員費が減少する予定である。今後は、現時点での人員でサービスの低下をさせることなく、同等のサービス水準の維持に努める。
○ 給与のあり方		
◇ 給与構造の見直し、地域手当等のあり方		国に準拠しており、人事院勧告に基づく適正な給与水準を的確に反映している。 また、平成20年度末のラスパイレス指数は、90.5%であり、類似団体では19団体中18番目、奈良県下12市では12番目の最下位、県下39市町村では27番目といずれにおいても低い状況にある。
◇ 技能労務職員に相当する職種に従事する職員等の給与のあり方		該当職員なし。
◇ 退職時特昇等退職手当のあり方		平成19年度に廃止。
◇ 福利厚生事業のあり方		奈良県市町村職員共済組合からの通知による掛金・負担金率に基づいて負担。
○ 維持管理費等の縮減その他経営効率化に向けた取組	②	平成22年度から実施した機構改革により、組織のスリム化を行ったが、今後も事務分掌の適正化等についての検討を重ねるなど、さらなる事務の効率化を図り、最少の経費で最大の効果が達成できるよう努める。 また、合併前の地域ごとに稼働しているマッピングシステムを統合することにより、保守料、賃借料等の縮減を図る。
○ 指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用	①、②	水道メータの閉開栓業務や検針業務など、委託化によりサービスの向上を図りつつ、経費の削減が可能であると考えられる業務について積極的に検討を行う。



#### IV 経営健全化に関する施策（つづき）

項 目	Ⅱの課題番号	具 体 的 内 容
2 コスト等に見合った適正な料金水準への引上げ、売却可能資産の処分等による歳入の確保		
○ 料金水準が著しく低い団体にあつては、コスト等に見合った適正な料金水準への引き上げに向けた取組		
3 経営健全化や財務状況に関する情報公開の推進と行政評価の導入		
○ 経営健全化や財務状況に関する情報公開	⑤	民間企業における経営手法を取り入れることにより、経営能力を高め、経営状況のさらなる向上に努めるとともに、経営健全化計画、財務書類等を積極的に提供・公開し、水道事業の経営状況を明らかにするよう努めていく。
○ 行政評価の導入	②	事務事業評価が導入され、事務事業に対する自己分析と自己評価が毎年度行われているが、これらを事後評価だけで終えるのではなく、PDCAのマネジメントサイクルを適正に回転させ続けることにより、次年度以降の予算に反映させるなど、事務改善を重ねていくよう努めていく。
4 その他	③	中長期的な計画に基づいた、耐震管への更新を図ることにより、震災をはじめとする災害に対するリスクを軽減させ、災害時においても安全な水を安定して給水できるよう努める。
	④	口座振替による水道料金の支払いを推進するとともに、滞納者に対しては、戸別訪問や給水停止等の収納対策を強化させることにより、経費の軽減と平等化に努める。
	⑤	事務処理におけるミスや不正処理等が発生するリスクを軽減させ、業務の有効性と効率性、財務報告の信頼性を高め、法令等の遵守、資産の保全等を図るため、内部統制を構築し、適正に機能するよう努めていく。

注1 上記区分に応じ、「Ⅱ 財務状況の分析」の「経営課題」に掲げた各課題に対応する施策を具体的に記入すること。その際、どの課題に対応する施策かが明らかとなるよう、Ⅱに付した課題番号を「Ⅱの課題番号」欄に記入すること。

2 今後行う経営改革の取組の内容について記載すること。なお、平成19年度から平成21年度までの間に公的資金補償金免除繰上償還措置の承認を受けている公営企業については、更なる経営改革の取組の内容が分かるように記載すること。ただし、新規に計画を策定する公営企業については、計画前5年間に取り組んできた経営改革に関する施策についても記入すること。

3 本表各項目に記入した各種施策のうち、当該取組の効果として改善効果額の算出が可能な項目については、「Ⅴ 繰上償還に伴う経営改革効果」の「年度別目標」にその改善効果額を記入すること。なお、当該改善効果額が計画前年度との比較により算出できない項目（資産売却収入・工事コスト縮減等）については、当該改善効果額の算出方法も併せて各欄に記入すること。

4 繰越欠損金や不良債務、資金不足額等がない場合等、事業の経営状態が良好な場合又は必ずしも悪いとはいえない状態の場合であっても、事業経営を良好な状態に維持するため又は更なる経営効率化のために講じることとしている費用削減施策・収入確保施策等があれば、当該施策を記入すること。

5 必要に応じて行を追加して記入すること。

V 繰上償還に伴う経営改革促進効果

1 主な課題と取組み及び目標

課題	取組み及び目標
1 経常経費の見直し	<p>【課題2】 平成22年4月に機構改革を行い「水道局 業務課・工務課」を「上下水道部 水道課」へと統合することにより、管理職の人員と人件費の削減を行った。今後は、各職員の事務分掌についてより効果的な配分を検討するとともに、委託化の可能性と効果についても十分に検討し、必要最小限の人員で、サービス水準を低下させることなく、さらなる経費の節減に努める。</p> <p>【課題4】 口座振替による収納率の向上に努め、経費の節減を図るとともに、受益者負担の考えを徹底し、委託化についても十分検討しながら滞納対策の強化に努める。</p>
2 経営効率化や料金適正化による繰越欠損金の解消等	
3 一般会計等からの基準外繰出しの解消等	
4 その他	<p>【課題1・3】 公営企業である水道事業の最大の目的は、安全で安心できる安価な水道水を継続的に供給することである。そのためには、水道ビジョンの策定やバランススコアカードの活用等により、中長期的な計画や目的、戦略に基づきつつ資本投資を行い、災害に対する耐震管への更新等の対応に努める。</p> <p>【課題5】 内部統制を適正に機能させることにより、公営企業の経営に伴う様々なリスクを効果的に軽減させるよう努める。</p>

注1 上記各項目には、IIで採り上げた経営課題に対応する取組としてIVに掲げた経営健全化に関する施策のうち、それぞれ各項目に該当するものについて、その対応関係が分かるように記入すること。

なお、地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）（以下、「財政健全化法」という。）に規定する「財政健全化計画」、「財政再生計画」又は「経営健全化計画」を定めていることから、地方財政法施行令附則第6条第3項の規定により、これらの計画を「公営企業経営健全化計画」とみなす場合には、各計画における施策のうち、それぞれの各項目に該当するものについて、その対応関係が分かるように記入すること。

2 各項目への記入に当たっては、IVに掲げた施策又は健全化法に基づく計画に掲げた方策をそのまま転記せず、ポイントを簡潔にまとめた形で記入すること。

3 必要に応じて行を追加して記入すること。

V 繰上償還に伴う経営改革促進効果（つづき）

2 年度別目標等

(1) 水道事業【延長計画策定団体】

① 年度別目標

(単位:百万円、%)

区分	課題	目標又は実績	平成18年度 (当初計画前年度)	平成19年度 (当初計画初年度)	平成20年度 (当初計画第2年度)	平成21年度 (当初計画第3年度) (延長計画前年度)	平成22年度 (当初計画第4年度) (延長計画初年度)	平成23年度 (当初計画第5年度) (延長計画2年度)	当初計画合計	平成24年度 (延長計画3年度)	平成25年度 (延長計画4年度)	平成26年度 (延長計画5年度)	延長計画合計
	累積欠損金 比率	当初計画の目標値 (実績値)	-	-	-	-	-	-					
		延長計画の目標値											
		当初計画の目標値 (実績値)	1.472	1.346	1.160	1.088	1.014	937					
		延長計画の目標値		1.346	1.160	1.088	1.014	937		774	699	629	

当初計画に計上した施策に係る改善効果額	【収入の確保】												
		料金改定率											
		改善効果額(料金の適正化)											
		未収金の徴収対策											
		改善効果額											
		一般会計負担金の額											
		改善効果額(負担金の確保等)											
		資産の有効活用											
		改善効果額(収入増額)											
		その他( )											
		改善効果額											
	【経費の削減】												
		職員給与と費の適正化											
		職員給与と費(退職手当以外)	106	119	121	123	126	128					
		改善効果額											
	給与水準												
	改善効果額												
	その他( )												
	改善効果額												
	維持管理費等												
	改善効果額(適正化)		4	5	5	5	5	24					
	工事コスト												
	改善効果額(縮減額)												
	その他( )												
	改善効果額												
									当初計画改善効果額 合計	24			
									(参考)当初計画補償金免除額(旧資金運用部資金)	19			

延長計画に計上した施策に係る改善効果額	【収入の確保】												
		料金改定率											
		改善効果額(料金の適正化)											
		未収金の徴収対策											
		改善効果額											
		一般会計負担金の額											
		改善効果額(負担金の確保等)											
		資産の有効活用											
		改善効果額(収入増額)											
		その他( )											
		改善効果額											
	【経費の削減】												
		職員給与と費の適正化											
		職員給与と費(退職手当以外)				10	5	6			6	6	6
		改善効果額					5	4			4	4	4
	給与水準												
	改善効果額												
	その他( )												
	改善効果額												
	維持管理費等												
	改善効果額(適正化)												
	工事コスト												
	改善効果額(縮減額)												
	その他( )												
	改善効果額												
									延長計画改善効果額 合計 A	21			
									延長期間が2年以下の場合に加算する改善効果額 B				
									普通会計における改善効果額のうち水道事業会計に加算する額 C				
									A+B+C	21			
									<参考>延長計画補償金免除額(旧資金運用部資金)	16			

注1 「課題」欄については、「1 主な課題と取組み及び目標」の「課題」欄の番号を記入すること。

注2 「延長計画に計上した施策に係る改善効果額」欄には、「当初計画に計上した施策に係る改善効果額」を含めないこと。

注3 「普通会計における改善効果額のうち水道事業会計に加算する額 C」欄については、当該会計における経営改革の改善効果額が当該会計に係る旧資金運用部資金の補償金免除額に達しない場合に記入すること(ただし、加算できる改善効果額は、普通会計に係る旧資金運用部資金の補償金免除額を上回る場合に限る。)

(1) 水道事業【延長計画策定団体】(つづき)

② 経営状況

	平成17年度 (計画前5年度) (決算)	平成18年度 (計画前4年度) (決算)	平成19年度 (計画前3年度) (決算)	平成20年度 (計画前々年度) (決算)	平成21年度 (計画前年度) (決算)	平成22年度 (計画初年度)	平成23年度 (計画第2年度)	平成24年度 (計画第3年度)	平成25年度 (計画第4年度)	平成26年度 (計画第5年度)
給水人口 (千人)	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
年間総有収水量 (千 $m^3$ )	5,170	5,074	5,003	4,906	4,946	5,028	5,033	4,995	4,970	4,945
公称施設能力 ( $m^3$ /日)	19,300	19,300	19,300	19,300	19,300	19,300	19,300	19,300	19,300	19,300
1日最大配水量 ( $m^3$ /日)	17,158	17,081	16,444	15,991	16,486	17,158	17,158	16,549	16,466	16,384
最大稼働率 (%)	88.9	88.5	85.2	82.9	85.4	88.9	88.9	85.7	85.3	84.9
供給単価 (円/ $m^3$ )	147.3	145.1	143.2	142.1	142.8	144.0	144.0	144.3	142.7	142.0
給水原価 (円/ $m^3$ )	134.7	127.9	130.9	127.4	122.2	138.7	140.0	127.7	130.8	134.9

③ 簡易水道事業の統合に係る基本方針

注 「統合計画の概要・実施スケジュール」又は少なくとも「検討体制・実施スケジュール、検討の方向性、結論をとりまとめる時期」を具体的に記入すること。

--